

第 62 期公益社団法人有隣厚生会事業計画

(平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日)

当法人は、医療、保健、福祉、教育その他より良い社会の形成に関する事業を総合的・一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与することを目的に平成 26 年 4 月 1 日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人になれるようにと医療を中心に事業を展開してまいりました。

今年度は御殿場市が市制施行 60 周年ということで、色々な催しの計画があります。

当法人も、御殿場市に活動拠点を移し、地域の公益のため医療保険活動の一つとして富士病院を開設運営して 60 周年となります。

市立病院の代わりを担い、より安全・確実で親切な医療を職員皆が培った技術を持って診療を実践することで、素晴らしい病院郡が形成し、地域医療を守っていきます。

当法人の 3 病院は、多くの診療科の疾病治療を行ない、各病院ともに 2 次救急を中心に救急医療等の政策的医療、専門医療や健診事業も実施し、さらには在宅医療や高齢者介護、医療従事者育成支援など、医療・介護等の全般に携わり、高度な技術を持って実施し、当地域における地域医療の確保や住民の健康維持・増進のため不可欠な存在となっております。そして 3 病院の特殊性を市民の方にも周知し、機能分担を進め、一つの病院のごとの連携で運営していくことで、厳しい環境を乗り越えてゆく所存です。今年度も今までの公益活動を継続し、発展させ住民の利益になることを推進し、一層の御殿場市・小山町の医療・介護の拠点としての機能・役割を果たしていく所存です。

公益事業の内訳

1. 病院の運営
2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

1. 病院の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期医療、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療科の開設運営、その他これらに付随または関連する事業等を一体的に実施している。

現在、急性期疾患に対応する一般病床を持つ富士病院、一般病床及び療養病床を持つ富士小山病院、一般病床及び腎臓病(透析)センター・血管創傷管理などの機能を持つ

東部病院を運営している。今期、富士病院は新しくなった病院の機能をフルに発揮できるようにマンパワーの充実が最大の課題である。施設・機器の整備はほぼ完了したが、若いマンパワーをもっと発揮出来るような組織の見直し、労働環境を改善し、診療システムの見直し(オーダリング等含め)により、労働意欲を向上させ、地域住民の為に良質な医療の提供することに繋げる。その為の活動として静岡県看護協会が主催するワークライフバランス事業と日本機能評価機構の更新を進めることで、次のステップを目指します。

富士病院の救急の機能を充実させ、東部病院、小山病院の救急の負担を徐々に緩和することを図り、各々特色を伸ばしていくことで機能分化を進めていきます。また各病院とも満床など受入困難な状況のときには連絡・協力しあいカバーをしていく。また富士病院が満床状態にならないように東部病院、小山病院はもとより地域医療期間との連携が重要で、そのためにICT事業の一貫で遠隔画像・データの閲覧が連携カードにより、どこからでも富士病院のサーバーに入り、必要な患者情報を閲覧できるシステムを今期稼働させます。

またグループに不足している精神科疾患の対応については、駿東郡小山町須走に所在する医療法人沙羅 東富士病院と緊密な関係を4月1日よりスタートします。当法人の精神科領域のみならず認知症疾患の対応のレベルが向上し、また職員の心の問題も相談できます。

健診事業は、御殿場市、小山町の住民健診(特定健診、乳がん、子宮ガン等)を中心に、最近の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与していきたい。また、住民の健康意識の向上と啓蒙活動も積極的に取り組んでいきます。

以下診療の一部を説明します。

1 - 1 富士病院の運営

一般外来は、地域内外の多くの患者に対し、地域の要望に応じて開設しており、その充実と継続に務め、開業医等からの紹介の受入と診察後紹介元の開業医に情報をお返すことを更にスムーズに行えるよう各病院の地域医療連携室に徹底させる。一日平均463人、日当点1,400点を予想。健診事業としては一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科検診、乳がん検診(今年度より誕生日実施)、小児検診等市町の行う健診事業などのほか、出張健診も行うことで住民ニーズに対応して幅広く地域の健康管理に寄与するとともに、検査結果に基づいての診断、健康管理及び予防等の相談にあたり、包括的な対応をし地域住民の健康管理に寄与している。又、今まで外来で診療していた2次健診の診察を健診科で専門医に診察できるシステムとすることで、一次健診から一貫した追跡を可能にし、又待ち時間解消に繋がるので、導入する予定である。

救急医療は地域の夜間や祭日における二次救急医療を引き続き受け持ち、広域救急の協力はドクターバンク制度を利用して消化器疾患の受入体制の強化を図りながら継続する。しかし御殿場地域救急患者の増加、満床状態の継続、沼津から運ばれて当院受診後、沼津地域に転送となった場合のクレームなど患者の不利益を生じる理由で月4回

を2回に縮小せざるを得ません。

入院については、看護師不足から昨年度、ICUを一時的に休止し、3病棟の7:1の維持と体制作りに取り組んだが、今年は、ワークライフバランス事業を通じて必ず働きやすい職場を作り、人員を確保、入院患者の看護の充実に邁進する。職場環境の整備に思い切った対策を打つ。

専門領域として

循環器医療

24時間365日体制で専門医を配置し、緊急の心筋梗塞等にいつでもカテーテル治療への対応ができるスタッフ体制を整え、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を果たしていく。又不整脈疾患のアブレーション治療の増加も期待する。

小児科

当会の富士病院は、この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機24時間365日態勢で急病患者に対応している。

吸器内科

今年度担当常勤医師が退職する関係で、昭和大学呼吸器科専門医が毎週木曜日勤務開始。常勤の内科医師で呼吸器のスキルの有る先生を大募集する。呼吸器外来は水曜午後と木曜午前午後。

糖尿病内科

昨年、日本糖尿病学会認定教育施設に認定され、チームで糖尿病指導にあたり、その管理に傾注し、また糖尿病の啓発活動を行っていく。御殿場地域糖尿病研究会を発足させ、連携強化を図る。また4月より非常勤で月・火・金勤務の糖尿病・代謝内科の医師採用

また糖尿病療養指導士を育てることも行う。

消化器内科・消化器外科・大腸肛門科

当法人では、昼間を中心に吐下血をはじめとする消化器疾患に対応する救急医療を実施している。又内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施する。また抗がん剤による化学療養もよい環境の中で安全に施行していく。

肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施していく。

乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動などを実施していく。

整形外科

脊椎・腰椎の手術症例が急増し、骨折、膝関節手術の増加も期待できる。リハビリの充実などもあり、MRIの活用も進んでいる。PT、OT、STの増員を計画、グループ内の応援にも応えられるように教育していく。現在渡辺整形外科医院に対して1名週半日の派遣は継続していく。

泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破碎治療患者も多い。

眼科

当地域で、眼科の入院の対応ができるのは、当法人の2病院のみであり、白内障以外にも最新のOCTの導入を計画、難しい症例も撮影でき、幅広い診療に役立つ。またレーザー光凝固装置を最新のものに更新し、パターン照射により痛みなく効果的な治療ができ、OCTとあわせ緑内障の分野で最先端治療ができる施設となる。のに役立つなどの診断にも大変効果を発揮している。

人工透析

御殿場市・小山町に裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変(骨折・心疾患・消化器系・脳疾患など)に緊急透析が出来る体制を24時間365日整えている。また最新の血管の状態を観察できるエコーを購入、より安全に血管管理を行う。

脳神経外科・神経内科

頭痛・めまい・痺れ・物忘れ外来など徐々に地域に浸透し、外来患者も増加、国保脳ドック検診も増え、入院患者の脳の管理を担う。高齢者の管理も含め、健診から重症まで幅広く担っていく。

皮膚科

アトピー性皮膚炎から皮膚潰瘍、悪性新生物の早期発見まで広範囲の治療・手術を担当。外来患者も多い。4月より週4日外来を開く。

麻酔科・ペインクリニック

4月から常勤医師1名採用となるが、1名常勤から非常勤となり、手術は大変組みやすくなる。また麻酔科指導医による本格的なペイン外来も、赤外線レーザー治療器を活用して、難治性疼痛の緩和に利用者増加を見込む。

婦人科

今年度より子宮ガン検診が誕生月検査となり、スタッフの負担は緩和されたが、火曜日午前中の医師が決まらず苦慮している。金曜日については共立からの応援で診療している。

1 - 2 富士小山病院

小山町唯一の病院として、老人比率の高い小山町民の健康増進のため、現在の診療科を迫行できるように人員設備等の努力をしていきます。また、4月より女性健康外来を開設し、この地域ではない専門外来として、女性患者への対応をしていきます。

平成27年度介護報酬の改定は、2.27%(実際には、人件費引き上げ分の1.65%プラスも含まれるので3.92%マイナス)の過去最大の下げ幅に迫るマイナス改定となり、加算のための要件も非常に厳しい内容となっております。これにより、当院の介護療養病棟

は、入所者1日当たりの介護サービス費が約50単位マイナスとなり、年間で約1,100万の減収となります。また、小山町の人口減少や近隣の診療所に開業等により、外来患者が平成24年度より5%の減少が続いており、昨年度の予算に対して、外来もマイナス予算となっております。しかしながら、昨年度から始まりました女性外来や、新規産業医先や、健康講座をはじめとした他講演会によるPR、オーダーリング等の導入により待ち時間の削減等により患者の獲得を目指します。

今年度から、特例交付金を受ける予定であり、この交付金を使い、今後も小山町唯一の病院として、小山町民に安定的な医療提供のために、現在の診療科を進行できるように人員獲得と設備の更新を行っていきます。特に医療職員の確保は、病院を運営継続していく上では非常に重要であります。医療人員不足が顕著な静岡県東部地区にて獲得は非常に難しい現状です。そのためにも、第一に獲得しやすい体制(職場環境や就業条件の改善)づくりのために有意義に使っていきます。

1-3 東部病院

我が国の医療制度は、高度化とその人材不足が叫ばれるなか、ミクロの議論の積み上げでは対応できないと、『選択と集中』による医療提供体制の構造的な改革をすべく、昨年創設された病床機能報告制度などによって、高度急性期医療機関の選別や地域包括ケア構想などによる機能分担を計ろうとしています。当院の中心的医療である透析医療も、高齢化や認知症など患者の病態の変化・多様化により、介護施設での対応が困難な透析患者が増加をし、その対応に苦慮している状況にあり、病院の方向性を問われております。

新年度からは特別交付金の交付が見込まれておりますが、それは医療療養病床の展開ではなく、救急を含む一般急性期病床の堅持であります。更には、御殿場・小山地域一位の患者数と規模を有する透析中心の医療機能と『足外来』機能も、より強固なものにしていく必要性があります。

しかしながら東部病院のベッド面積は現行基準の6.3㎡ではなく旧基準の4.3㎡で造られており、使用勝手が悪く、また個室不足からも実使用可能病床数は減少しており、倉庫・収納スペースの不足など、病棟の構造が実情にそぐわず、その解消を現場から求められておりました。

以上から、2階病棟に在る入院透析スペースを病室に変更することにより、7人部屋等の多床室の入院患者数を減らし、病室機能を高め、入院透析と外来透析を合わせた透析エリアを新たに増築する計画を検討いたします。(既存棟改修費5千万円+増築費用1億4千万円+空調機器交換費用3千万円+医療機器及び駐車場整備費その他3千万円。合計事業費2億5千万円)

本年度損益分岐値は、医療職の募集及び現任職員の処遇改善費用も織り込みますと、透析部門は月透析実施件数を外来1400件(+64)。月入院透析実施は300(+28)件、透析外の一般外来患者の月延数を2400名(+100)、一般入院(+40)となります。

医療スタッフの増員をして、更なる患者目標値に到達しなければ、欠損となりますので、そのための、広報活動や健診事業活動を行ってまいります。

なお、従来からおこなっております常勤透析医師の獲得活動は更に他科の医師獲得と合せ医師紹介業者と連携契約をし、活動の強化をしてまいります。

職員には、個人活動がセクション・部署・病院全体へと、共通の目標に向けて行動するチームワークを目標管理制度(BSC)によって徹底し、院内・院外研修会の参加率の引き上げや医療安全管理の徹底のためヒヤリ・ハット報告件数10%増を目標値にし、危険予知訓練(KYT)の実施、RCA分析による対策強化を図り、職員の成長を図ってまいります。

1 - 4 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からも医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などに出来る限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努める。

- ・御殿場市救急医療センターへの一時救急医療代行(年3回)
- ・救急センターの当直・小児科担当・放射線技師派遣
- ・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
- ・災害時ボランティア活動、募金活動

1 - 5 医療従事者による調査・資料収集・研究学会発表

社会的なニーズの高い医療、看護、公衆衛生等の分野における課題について、調査研究を行い、その成果を発表する。小児科では静岡県感染症発生動向調査を今年度も継続。さらに富士病院は年報にて各科医療の成果・報告と地域連携実態調査、入院、外来各種調査を一般に広報している。各種研究会学会の発表を積極的に実施していく。

1 - 6 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しするなど積極的に取り組む。、共同利用の機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図など広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献している。また昨年度ICT事業の一貫として、近隣の病院、開業医、施設と連携して連携カードによりどこからいつでも当院のサーバーに入り、必要な患者様の診療情報を閲覧できるシステムを開発した。(補助事業)このことで紹介した患者様のその後の様態を紹介元から検索でき、その便利さから連携の要として期待でき、今期その有効活用を押し進める。

2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

地域の病院等への通院が困難となった患者・家族のため、医師や看護師が不足している当地域において患者急変時に往診を行う関連医療機関を確保し訪問看護ステーションを24時間体制で維持することは困難を極めることから現在では唯一の訪問看護ステーションとして、地域の在宅医療を推進していく。

当訪問看護ステーションは、3病院による内科疾患等へのフォローアップ体制により継続的な運営が行なわれ、地域の在宅医療の要の役割を果たしていく。

【平成27年度予想】

- ・利用者数 106 名
- ・指示書依頼医療機関 22 施設 45 名
- ・訪問年間回数 6,765 回
- ・夜間休日相談回数年間 750 回
- ・夜間休日出動回数 350 回 を計画しました。

また、併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格を持つ5名の職員が訪問看護ステーション利用者の要請に基づいてケアプラン作成に当たり、介護サービスの提供の確保がされるように努めたい。

【平成27年度予想】

- ・ケアプラン作成数 30 例

3. 高齢者のグループホームの運営

当法人が運営する高齢者のグループホームは、認知症で重度の疾病のある患者または生活保護受給者をはじめとする生活困窮者で、行き場に困っている方々を積極的かつ優先的に受け入れている地域密着型施設である。

入所者は、肺気腫、ペースメーカー埋め込み、心筋梗塞、尿道バルーン留置などの疾患を持った上に昼夜の行動が逆転するなど、いずれも他の介護施設では受入困難な方たちの受入に今後力を入れていく。

当施設の入所者は、全員が富士病院での診療が必要であり、訪問看護ステーションからの看護を受けながら、医師の指導に基づき、家族に代わってホーム職員による食事や生活の介助を受けている。

【平成27年度予想】

昨年、御殿場市、小山町に相次いでオープンした介護施設の影響で、一時的に利用者は減ったものの、重症疾患を抱えた認知症施設として希望者が有る以上、継続していく方針である。利用料金を見直し、今期、利用者数平均を7.5とした。

- ・入所予想 7.5 人(定員は9人)
- ・介護度5は1人、介護度4は3人、介護3は2.5人、介護度1は1人
(認知症に加えて身体の介護度も大変高い特徴がある。)
- ・運営推進会議6回

- ・お花見などの催し年 32 回
- ・便りの発行 6 回

4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4 - 1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、他が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めたい。

4 - 2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを実施する。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等を、病院内や市民交流センター等を会場として、無料で行なっている。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行う。

【平成27年度予想】

- ・公開講座「下肢静脈瘤のお話」「動脈硬化のお話」
4月19日 御殿場市民交流センターふじざくら（東部病院）
- ・健康講座 2015
5月23日 小山町総合文化会館（富士小山病院）
- ・減災の日催し(富士病院) 富士病院祭
- ・東部糖尿病予防キャンペーン

5. 医療人材の養成支援

5 - 1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援する。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献する。

特に地元の御殿場医師会が運営する御殿場看護学校については今期も多くを担当し、同校の基礎実習、領域別実習の多くを担当し、学校の講義においても当法人の医師、看護師等有資格者 28 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行なっていく。

【平成27年度予想】

- ・大学:昭和大学、東海大学、日本大学など
- 学部(職種) 医歯学部、薬学、看護学部、臨床検査、臨床工学技士、理学療法士、言語聴覚士、救命救急士、ホームヘルパー2級実習

5 - 2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看

護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣する予定である

【平成27年度予想】

・医師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、等による講演

5 - 3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5 職場体験実習」に参加する道を開いている。

5 - 4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受入る予定である。

5 - 5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設に通っている人を対象とし、当法人の創案により地域の病院が連携して、奨学金貸与を実施している。奨学生が激減しており、御殿場市病院部会に奨学金制度の見直しを提言していく。

6. 病院、施設等における各種相談助言

6 - 1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク(他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク)を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からの就職相談・社会資源活用の為の相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料で対応する。

6 - 2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成12年1月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。